

学校自己評価書

令和5年度

令和6年3月

学校法人長嶋学園

専門学校静岡医療秘書学院

学校評価委員会

委員長	紀平 幸一（学院長）
副委員長	増田 正史（法人理事長）
	齋藤 昌一（副学院長）
委員	金原 保雄（法人事務長）
	野々村大介（教頭）
	金井 涼稀（教務課長）
	佐野 吉秀（学生課長）

目 次

学校評価について	P 1
I 学校の現況	P 2
II 評価の基本方針	P 3
III 教育目標・計画	P 3
IV 評価項目の達成及び取組状況	
1. 教育理念・目標	P 4
2. 学校運営	P 5
3. 教育活動	
①目標の設定等	P 6
②教育方法・評価等	P 7
③資格試験	P 8
④教職員	P 9
4. 学習成果	P 10
5. 学生支援	P 11
6. 教育環境	P 12
7. 学生の受入れ募集	P 13
8. 財務	P 14
9. 法令等の遵守	P 15
V 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	P 16

学校評価について

教職員による自己評価

評価項目

「専修学校における学校評価ガイドライン」を基に項目を設定

評価方法

教職員が学校の目標・計画等に沿った取組の達成状況や、それらの取組が適切に行われたかについて評価・公表を行い、学校運営の改善等に活用する。

各評価項目を「専修学校における学校評価ガイドライン」に準じて4段階で評価し、その評価点の平均値を算出して評価項目の評価点とする

学生による自己評価

評価項目

授業内容に対する評価を10項目にわけて、無記名にてアンケート調査を実施

評価方法

各評価項目を4段階で評価し、その評価点の平均値を算出して評価項目の評価点とする

学校関係者評価

学校関係者評価委員が学校の教育活動や教育環境など自己評価報告書を基に評価する

I 学校の現況

1. 学校名 専門学校静岡医療秘書学院

2. 所在地 〒422-8042 静岡市駿河区石田1丁目20番11号

3. 沿革

1968（昭和43）年 静岡県医師会副看護学院（通信制）として開校

1976（昭和51）年 静岡県医師会MS学院と改名（MS…Medical Secretary）

1984（昭和59）年 静岡県医師会医療秘書学院と改名（高卒以上一般公募開始）

1991（平成3）年 本学院の運営を学校法人静岡女子商業学園が受託

1993（平成5）年 専門学校静岡医療秘書学院として開校

2003（平成15）年 法人名を長嶋学園に変更

4. 学科の構成

課程名 商業実務専門課程

学科名 医療秘書科

修業年限 2年 全日制

5. 学生数及び教職員数（令和6年2月1日現在）

学生数 55名

教職員数 専任3名、講師18名

事務職員 1名

6. 施設の概要

1階

職員室兼事務室、学院長室、多目的教室（101教室）、保健室、ロビー

2階

普通教室、情報処理室、学生ホール（図書コーナー）、教材準備室

Ⅱ 学校の基本方針

教育理念

日本医師会認定医療秘書養成機関に相応しい、専門的な医療事務の知識と最新の情報処理技能を兼ね備え、全国の医師が本当に求める医療秘書を養成する。

また、医療業務に携わるために必要な知識と技能を習得するだけでなく、人として義を重んじ礼を尽くす人間形成に基づき、医療現場において病める人たちに優しく接し、人の悩みのわかる人間愛に根ざした奉仕の精神を兼ね備えた人材を育成する。

Ⅲ 教育目標・計画

1. 日本医師会認定医療秘書養成機関として、良好な医療体制を構成するチーム医療の一員として医療機関で重要な役割を担う医療秘書を育成する。
2. 教育環境に常に気をくばり対応するとともに、社会・医療関係者の意見をより多く取り入れる。
3. 学院生便覧（学則・細則・教育課程・教務規程・学生の心得等のさまざまな規程）を理解させ教育を行う
4. 教職員は、学生の伴奏者であることを自覚し、学生個々の将来を見据えた教育を行う。

Ⅲ 教育目標・計画

1. 教育理念・目的・人材育成像

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4.0
学校における職業教育の特色は定められているか	4.0
社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.7
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・学生・関係業界・保護者等に周知されているか	3.3
各学科の教育目標、育成人材像は、学校に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	2.7

【特記事項】

- ◆ 理念等は P3 記載
- ◆ 医療機関において卒業後即戦力となる人材を育てるために現職医師等の講師陣による専門的な授業を行っている
- ◆ 卒業生の勤務先医療機関へアンケート調査を実施し、卒業後の状況把握を積極的に行う
- ◆ 医療事務・医療秘書の仕事について、一連の仕事内容が分かるような動画を作成するなど、医療現場の仕事内容や状況を知る機会を設ける

【課題】

- ◆ 医療秘書（医師事務作業補助者）の役割や仕事内容が理解しておらず、就職希望者が少ないため、卒業生へアンケート調査を実施し、仕事内容を明確にし希望者を増やす
- ◆ 社会人になる自覚がない学生がいる
- ◆ 医療機関と学生との就職におけるミスマッチを防ぐようにしていく必要がある

【改善策】

- ◆ 医師事務作業補助者の役割等について、藤枝市立総合病院の医事管理課管理係長で診療情報管理士の柳原巧様を特別講師として招き、学生へ講義をしていただいた
- ◆ 社会人としての自覚を持ってもらうよう、病院アルバイトを積極的に行ってもらう
- ◆ 「医療クラークを育てる会」に参加し、学生自ら情報が得られるようにする
- ◆ 社会における求められる人材育成を目指し、医療機関との実習など連携をしっかりと構築し、就職活動につなげるようにする

2. 学校運営

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.7
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3.7
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3.0
人事、給与に関する規程等は整備されているか	3.3
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	3.3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3.3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3.7
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.0

【特記事項】

- ◆ 事業計画については運営委員会の資料に記載
- ◆ 情報公開についてはHPで公開している
- ◆ DXの活用は、今後必要不可欠になって行くため、学院でも取り組むを考えている
- ◆ 学院の認知度を上げるため、学校訪問の拡大やSNSの活用を積極的に行っている

【課題】

- ◆ DXを活用していきたいが、予算やソフトなど、進めていくにあたり問題が多い
- ◆ 学生個々の質の向上を図るための授業展開をするにあたり、学生の習熟度に応じた、対応が必要となる。習熟度別に応じた低い学生の底上げと、高い学生のレベルアップを目指す授業が課題である

【改善策】

- ◆ 電子カルテや医事コンピュータが出来るようコンピュータやソフトを購入し、現代医療に特化した授業が出来るようにしたい
- ◆ 他県の認定校と情報交換を行う
- ◆ 他県の認定校へ訪問し、実際の授業を見学させてもらう
- ◆ 授業科目によって、教員間でのフォロー体制を作り、目が行き届かないことを防ぎ、学生一人ひとり学力向上につなげる

3. 教育活動 ①目標の設定等

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3.7
教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての終業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3.7

【特記事項】

- ◆ 教育理念については P3 記載
- ◆ 日本医師会の認定医療秘書の推奨カリキュラムに準拠している
- ◆ 学生の質を上げレベルアップを図り、より難易度の高い資格取得へと挑戦させている
- ◆ 医療現場のニーズを把握するため、知識と技能のみならず、礼儀や一般常識も身につけられる授業を展開している

【課題】

- ◆ 日本医師会認定校として自信と自覚を植え付け、即戦力として活躍できるようスキルアップを計る
- ◆ 挨拶や礼儀作法を身につけさせ、患者さまの接し方やスタッフとのコミュニケーションが出来るようにさせる
- ◆ 2月の認定試験に挑む際、気が緩んでしまった学生がいた
- ◆ 日医認定試験をはじめとした資格取得において、より高い資格取得に向けて行っているが、ワープロなども高度な資格取得にも挑戦させ、就職を見据えた意識向上を目指す

【改善策】

- ◆ 高度な資格取得にもチャレンジさせ向上心を養い、自信と誇りを持って医療現場へと出向かせられるように努める
- ◆ 医療現場で患者さまを尊重し、敬意を持って接することが出来るようにと接遇を重んじ、実践的な研修を授業に取り入れて行く
- ◆ 保険事務、後期試験が終わっても、集中力が途切れないよう、学生への声掛け、授業計画をする
- ◆ 資格取得だけでなく、卒業後のキャリアを目標とした意識づけを授業などでも踏まえて指導を行っていく

3. 教育活動 ②教育方法・評価等

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
カリキュラムは体系的に編成されているか	3.7
キャリア教育・実施的な職業教育の視点にたったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3.3
関連分野の企業・関係施設や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	2.7
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置付けられているか	4.0
授業評価の実施・評価体制はあるか	4.0
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れられているか	3.3
成績評価・単位認定、進級・卒業の基準は明確になっているか	4.0

【特記事項】

- ◆ 医療機関のニーズを踏まえ、日本医師会制定カリキュラムに、看護概説・病院関連事務・礼儀作法・課題研究（検定強化）等の学校設定科目を加えている
- ◆ 挨拶や言葉遣い、服装などの身だしなみを日頃から指摘し指導をしている

【課題】

- ◆ 医療機関から実習アルバイトの要望が多くあり、授業や資格取得に影響が出ないか心配している
- ◆ 実習先からの評価で多かったのが、コミュニケーション力が不足しているということ
- ◆ 「挨拶」や「言葉遣い」が出来ていない学生が多い
- ◆ 就職活動において、意識が弱い学生が目立ってきている。（自分の予定優先。不採用だった理由に対する反省等）
- ◆ 資格取得だけでなく、就職時に向けたマナーなどの指導を学生に対して、常時意識して指導する

【改善策】

- ◆ 言葉遣いや敬語、大きな声での挨拶など、礼儀作法の授業だけではなく各教科の授業で繰り返し実践して身につけさせる

- ◆ 実習アルバイトは、学生にとって現場を知る・仕事を覚えるなど、とても貴重な経験が入職前に出来ると思うので、補講などをして学生が就学に遅れをとらないよう計画的に配慮する
- ◆ コミュニケーションについて、普段の学校生活の中で指導を強化していく
- ◆ 授業では礼法や各種講座などで学生に敬語やマナーの勉強を行っている。しかし、実習や病院見学など実践的な場を想定した、普段からの指導をより積極的に行っていく

3. 教育活動

③資格試験

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか	4.0

【特記事項】

- ◆ 医療保険請求事務実技試験について、受験者 27 名 合格者 27 名。全員合格という快挙を達成し、昨年度の汚名を挽回した
- ◆ 日本医師会医療秘書認定試験について、27 名受験 23 名合格
- ◆ 意欲向上に繋がるよう、個々への対応を充実させ、全体の雰囲気づくりを徹底した
- ◆ 放課後や長期休暇中に学院を開放して、学習場所の提供に努めた
- ◆ 日本医師会認定の資格以外に、医療秘書技能検定に挑戦させた
- ◆ 資格取得の奨励のため苦手分野克服、答案練習等の時間を確保するため、医療保険事務演習や課題研究の授業をカリキュラムに導入している

【課題】

- ◆ 放課後や長期休暇中に学院を開放して、学びの場所を提供したが、殆ど来なかった
- ◆ 医療保険請求事務実技試験に関しては、2 年ぶりに全員合格を果たした
- ◆ 就職に有利なる、医師会報へ資格を多く掲載出来るようにしたい
- ◆ 多くの資格取得を目指し、新しい資格取得にチャレンジした
- ◆ 日医認定試験の合格率が、100%とはならなかった
- ◆ 専門科目に関するドクターの講師に依頼している。しかし、目標とする資格取得に向けて、授業を行う際に職員の指導力の向上も必要となってくるため、保険請求事務や新たに挑戦する、調剤事務管理士技能試験など知識も身につけることが望ましい

【改善策】

- ◆ 学習への意欲を持って取り組む学生は多くなったが、休暇中はアルバイトなど、プライベートに使う時間を設けている為、日にちを決めて補講日を設けることにする
- ◆ 医療保険請求事務実技試験に全員合格を果たしたが、より難易度の高い資格にもチャレンジさせて行く予定である（診療報酬請求事務実技試験など）
- ◆ 医師会報に資格取得が掲載され、その資格を見て求人を頂けるケースが増えて来ているので、調剤事務管理士の資格を受けさせ、医師会報へ掲載できるようにした
- ◆ クラス全体で資格取得に向け、助け合いながら取り組んでいた
- ◆ 日々の授業や試験から、日医認定試験を意識してもらうよう指導する
- ◆ 職員個々の学習による、指導力の向上とスキルアップを目指す

3. 教育活動

④教職員

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
人材取得目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	2.7
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4.0
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	2.7
職員の能力開発のための研修等が行われているか	2.3

【特記事項】

- ◆ 医療・保健・福祉基礎の専門教科は、それぞれの専門分野の現役ドクターを講師として招いているため、変化する医療界の情報も得ることが出来る
- ◆ 今年度は、退職と移動を伴い2名の教員を補充したが、知識と技能の資質向上と人として礼を尽くす人間形成の修得に、教職員も取り組む必要があった

【課題】

- ◆ 医療機関で医療事務として勤務していた方を採用したが、教育機関への理解・柔軟な対応が出来なかった
- ◆ 職員の研修会として、専門教科の講師の授業見学・体験を実施する
- ◆ 教員の中で「報告・連絡・相談」に不備があった
- ◆ 新しく入ってきた教員に対し、指示に不備があり、二度手間になってしまうことがあった
- ◆ 多様な学生がいるため、一人ひとりの学習意欲の向上はもちろん、個性を尊重し、卒業後に医療機関にて活躍できる人材育成。社会人に向けての意識を高めることが必要である

【改善策】

- ◆ 医療機関で勤務経験が豊富で知識はあったが、組織として順応出来なかったので、今後は、教育現場での経験者を採用して行きたい
- ◆ 教員の知識の向上が求められている為、独学での勉強より、専門知識を持った講師とコンタクトを取って研修をさせてもらう
- ◆ 情報交換を積極的に行う（1人だけ知っているのではなく、全員で情報を共有する）
- ◆ 学生の教育だけではなく、教員の教育にも目を向ける
- ◆ 授業では礼法で礼儀・マナーについて実践的授業も含めて行われている。本学院ではクラス担任制度を設けているメリットを生かし、より学生一人ひとりに目を向けた指導を行っていくことが改善策の一つといえる

4. 学習成果

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
就職率の向上が図られているか	4.0
資格取得率の向上が図られているか	3.3
退学率の低減が図られているか	3.3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3.0
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3.3

【特記事項】

- ◆ 医療機関への就職希望者の決定率は100%だが、自己開拓をする学生がもいる
- ◆ 医療現場で即戦力として活躍できるように、専門的知識の習得に真摯に取り組む学生が増えた
- ◆ 資格取得に対する意識が高く、積極的に補講を行うなど昨年度より成果が上がっている
- ◆ 基本的な生活習慣が身につけており、また、担任の指導により、遅刻や欠席が昨年度に比べ大幅に減少した

【課題】

- ◆ 就職先を歯科や美容皮膚科など、求人票以外を希望する学生がいる
- ◆ 資格取得や勉強に対する意識は高いが、結果が伴わない学生がいる
- ◆ 積極的に病・医院を調べ、見学へ行くなど、就職へ対する意識が高い学生が増えた
- ◆ 多くの検定にもチャレンジし、資格取得に対しての意識が高くなった
- ◆ 卒業後の活躍を把握するのが難しい
- ◆ 医師会のバックアップもあり、就職希望者の決定率は100%となっている。中には、希望就職先を断られることもあった

【改善策】

- ◆ 医療事務・医療秘書として相応しい態度と言葉遣いが出来るように指導する
- ◆ 知識の習得や資格取得に向け、反復して課題を行わせること。また、取り組み方などを改善していき効率アップを図り、結果が出せるよう指導していく
- ◆ 卒業後も連絡が取れるよう、担任が学院と卒業生との窓口になる
- ◆ 学生の就職試験の際には、面接指導や実習における言葉遣いなど、細かい指導や対策・準備して臨むようしていく

5. 学生支援

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4.0
学生相談に関する体制は整備されているか	3.7
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3.0
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3.7
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3.3
学生の生活環境への支援は行われているか	3.0
保護者と適切に連携しているか	2.7
卒業生への支援体制はあるか	3.7
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3.3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3.3
関連分野における業界との連携による卒業後の再教育プログラム等を行っているか	2.3

【特記事項】

- ◆ 高等教育の修学支援新制度の対象機関として認められ、条件を満たす学生は給付奨学金と入学金・授業料減免を利用できるようになった
- ◆ 就職には静岡県医師会報のPR効果が大きい
- ◆ 静岡県医師会が開催している「医療クランクを育てる会」を教育支援として有効活用できないか検討している

【課題】

- ◆ 静岡県医師会報へ学生を掲載して頂いている関係で、求人数は大幅に増えているが、新卒の求人より既卒者の求人が多くあった
- ◆ 学生で自己主張が強く、就職試験で苦戦をした
- ◆ コミュニケーションをよくとる学生は、相談をしてくれるが、コミュニケーションをとるのが苦手な学生は、あまり相談をしてこない
- ◆ 既卒向けの求人も来るが、既卒者へ紹介するのが難しい
- ◆ 学生一人ひとりが学習に集中して取り組む支援体制に加えて、学校生活も相談支援する

【改善策】

- ◆ 静岡県医師会の協力を得て、今年度も就職希望者決定率 100%を達成できた。しかし、医療機関からは即戦力が求められているので、新卒でも対応できるよう実習アルバイトへ多く出向かせ、現場の状況やスタッフへの配慮などを勉強させるようにする
- ◆ 自己主張が強かったり、コミュニケーション不足の学生に対し、より一層個別面談を行い、相手の気持ちが理解できる、またしっかりと相手を見て会話ができるように指導していく
- ◆ 苦手な学生には話すきっかけをつくり、学生が自分から話をするような環境を作る
- ◆ 既卒向けのLINEグループ（公式）があるので、活用していく
- ◆ 学生と積極的にコミュニケーションを図り、学生に問題が起きた際に柔軟に対応する

6. 教育環境

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.3
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	4.0
防災に対する体制は整備されているか	3.0

【特記事項】

- ◆ 2年生の病医院実習は全員無事に終わることができた
- ◆ 防災対策として、水、カロリーメイト、携帯トイレ、ウェットティッシュを備蓄している
- ◆ 2階からの避難用の救助袋とはしごの設置が、計画だけで実行されていない
- ◆ 1階と2階のロビーに机と椅子を購入。学生たちが交流を深めるための空間を作った
- ◆ コロナ前のように、遠足や各種講座などの行事が行われるようになった。海外研修旅行（ハワイ）も実施できた

【課題】

- ◆ 海外研修では、学生はみんな喜び楽しんで帰国して来たが、物価高騰と円安の影響もあり、旅行費の追加徴収をして負担を掛けた
- ◆ ロビー等に、机と椅子を入れ替えたおかげで、見栄えが明るい雰囲気になった。後は、教室の机と椅子が老朽化しているので新調していきたい
- ◆ 防災の備品の見直しを検討すべきであり、定期的な点検もしっかり行う
- ◆ 2階からの避難対策がなされていなかった
- ◆ 暖房の設定温度が25度以上で窓を閉め切ってしまう
- ◆ 施設設備の部分的な老朽化やロビーの机、イスの運搬が困難。汚れも目立っていた

【改善策】

- ◆ 旅行積立金の金額を少しあげていくようにする
- ◆ 教室の机と椅子を新調できるよう予算建てをする。
- ◆ 防災対策として、非常食を水またはお湯を注げば食べられる、お米へ変更する
- ◆ 休み時間や授業中に換気を行い、設定温度を常に注意する
- ◆ ロビーの机、イスを新しくしたことにより、学生からも好評だった
- ◆ 課題で挙げたように、万が一に備えた準備や点検を定期的に行うことで、地震などの災害などにも備える

7. 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか	4.0
学生募集活動は、適正に行われているか	4.0
学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	3.3
学生納付金は妥当なものとなっているか	3.3

【特記事項】

- ◆ 真実性・明瞭性・公平性・法令遵守等十分配慮し、入学希望者に判断材料を提供している
- ◆ HPは最新情報に更新し、学院の雰囲気や学生の様子が伝わるように取り組んでいる
- ◆ SNSの活用をはじめ、高校生が携帯で学院の情報や学生の様子が伝わるように取り組んでいる

【課題】

- ◆ オープンキャンパスでは、学生スタッフを配置し、お出迎えや誘導、レセコン補助をし、トークタイムを作り、学生と来校者、保護者とが話をする機会を設けた
- ◆ パンフレットを若者目線へと一新し、明るい学校の雰囲気や特色を出せるようにする
- ◆ オープンキャンパスに参加した学生は、良い印象を持ってもらえている。より多くの学生に学校の認知度を高める

【改善策】

- ◆ 資料請求が昨年に比べ大幅に増え、オープンキャンパス実施の回数も増やしたことで、来校者が増え出願へ繋がったが、もう少し内容を検討する余地がある
- ◆ 学校訪問やガイダンスなど、積極的に参加して学院のPRが出来たが、定員には満たしていないので、より一層学校訪問を積極的に行う
- ◆ SNSでの投稿頻度が低いので、毎日ストーリー、1週間に1日投稿を目指し学校の雰囲気を知ってもらう
- ◆ オープンキャンパスに学生がスタッフとして参加したことにより、学生目線の意見、教科書等を見せたことで、参加者がより学ぶことを身近に感じてもらうことが増えた
- ◆ HPやSNSの活用を今後も続けることはもちろん、地道なPR活動を行っていく

8. 財務

評 価 項 目	適切…4 ほぼ適切…3
	やや不適切…2 不適切…1
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3.0
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.0
財務について会計監査が適正に行われているか	2.7
財務情報公開の体制準備はできているか	3.3

【特記事項】

- ◆ 財務情報は HP で公開している

【課題】

- ◆ 学生募集で定員に達するようになれば、財務は安定する
- ◆ 広報が活動しやすいように予算を明確化する
- ◆ 予算等（学年費）、教員が把握できていない

【改善策】

- ◆ 学校訪問や PR を積極的に行い、また、オープンキャンパスへの取り組みも工夫して効果を上げる
- ◆ 宣伝費に費やせる予算を予め決めておく
- ◆ 年度初めや、月に 1 回、予算についての報告を教員内で行う

9. 法令等の遵守

評 価 項 目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.7
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.7
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3.0
自己評価結果を公開しているか	3.7

【特記事項】

- ◆ 自己評価結果は HP で公開している

【課題】

- ◆ カリキュラムと資格取得について、見直しや検討をすべきである
- ◆ 改善されている課題もあるが、新しい課題も出てくる
- ◆ 個人情報の保護はインターネットの普及から、より厳しいものとなっている。そのため、本学院においても、生徒情報に関しての取り扱いには十分に気を付けて扱うことが必要である

【改善策】

- ◆ カリキュラムと資格取得では、今後のニーズに合わせたカリキュラムを検討する。また、資格取得では、日本医師会認定校のみならず、医療現場で即戦力として活躍できる為の取得を目指す
- ◆ 課題について、定期的に振り返りを行い、少しずつ改善するよう取り組む
- ◆ 生徒との連絡には SNS の LINE も使われることがある。そうした際には、他の生徒情報などが漏洩しないよう使用には十分に注意する

V 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- 学生募集については、SNS を活用し PR をするなど、宣伝効果があったと思われる。また、オープンキャンパスでは学生をスタッフとして参加させた。来校者や保護者への対応が良く、質疑応答では、学院の魅力や学校生活、アルバイトなどを伝えていた。その甲斐あって昨年度より入学者が大幅に増えた。
- 教職員としては退職と異動があり、医療機関で事務の経験者と中堅の商業科を法人から異動させ人員を確保して新年度スタートしたが、医療機関での実務経験はあるが、教育現場での経験がなかったため、学生に対して公平さが欠け、学院の方針に馴染めなかった。
- 新しい検定にもチャレンジしていき、高い合格率を目指していく。学生の意欲、意識を高めるためにも、教員も勉強し、学院全体でチャレンジしていく。
- 生活態度で目立つ学生が少なくなってきた。「挨拶」や「言葉遣い」など、出来ている学生が多くなってきているが、まだ身についていない学生もいる。「挨拶」「言葉遣い」を当たり前にするよう、学生指導を行っていく。
- 学院が良い方向へ進んでいる今、気を抜かず、学院の力になれるよう努力していく。学院の雰囲気も良くなっており、クラス内で協力し、よきライバルとして頑張っている学生へ、手助けを行っていきたい。
- 本学院の一番の強みである日医認定試験の全員合格が目標である。学生の医療機関への就職の幅を広げるための秘書検定やワープロなど多くの資格取得を目指し、希望就職先への進路活動につなげることが目標である。卒業後のキャリアを踏まえ、勉強面での学生の学力向上を目的とする、カリキュラムや教育課程の構築と、実習や病院見学を見据えた、礼儀・マナーの指導も大切である。少子化にも対応する、特色を生かした生徒募集や、魅力ある学校運営、医療機関との連携を通じた就職への進路活動を行っていく。